

みどりの 通信



2019

8

NO.465

定 礎 式



梅雨の晴れ間となった7月17日、地域障がい者総合リハビリテーションセンターの定礎式を執り行いました。

【理 念】 キリスト教精神に基づく「隣人愛」

【経営方針】 この地域にしっかりと根ざし、住民に信頼される病院づくり



社会福祉法人 聖隷福祉事業団

医療保護施設

総合病院 聖隷三方原病院

SEIREI MIKATAHARA GENERAL HOSPITAL

〒433-8558 浜松市北区三方原町3453

TEL 053-436-1251(代) FAX 053-438-2971

おしらせ



地域障がい者総合リハビリテーションセンター定礎式

定礎式は建物の安泰を願って礎石（定礎板）を設置する儀式です。式典では院長から定礎板の説明（院長直筆の「愛」が石版に刻まれています）がされ、その定礎板の内側に納める壺の中には、聖書や出席者の名前が書かれた式次第、当日の新聞が納められました。



患者満足度調査を実施しました

患者さんのご意見を病院運営に反映させ、医療サービスの質の向上を図ることを目的に、外来を7月23日～7月25日、病棟を7月23日～7月29日の期間で調査を実施させていただきました。皆様のご協力ありがとうございました。

なお調査結果につきましては、病院のホームページおよびみどりの通信で報告いたします。



フェスタおおぞらボランティア募集

聖隷おおぞら療育センターでは、フェスタおおぞらの開催にあたり協力して下さるボランティアを募集します。

開催日：9月15日(日)

時間：11:00～16:00（うちフェスタおおぞらの開催時間は13:00～15:00）

内容：会場設営や模擬店の販売員、会場案内等
お申込み・お問い合わせ：

フェスタおおぞら実行委員会

ボランティア担当まで（電話：053-437-1467）



みどりちゃんのつぶやき ～火災総合訓練～

7月19日の17時30分より火災総合訓練を実施しました。「C4病棟で火災発生」という想定で、出火場所の確認、通報、初期消火、患者さんの避難誘導などの各種活動の確認を行いました。

聖隷三方原病院では、毎年この時期に火災訓練を行っています。24時間体制で運営を行う病院にとって、いつなんどき火災が起きても対処できるように、各年で日中と夜間の訓練を交互に行います。今年は日中の訓練でした。

今後も不測の事態に対処できるように、日頃から意識を高め業務を行っています。



がん相談支援センターからのお知らせ

おしゃべり会「じゃがいも」

同じ病気を抱えている患者さんといっしょにお話してみませんか？おしゃべり会はみなさんで体験をわかちあい、支えあう会です。

参加費無料 申し込み不要

日時：8月22日(木) 13:30～15:00

場所：聖隷三方原病院 第6会議室

対象：がん患者さんとご家族



第3回 就労に関する相談会

静岡産業保健総合支援センターから派遣された両立支援促進員と当院の相談員がご相談をお受けいたします。

予約制

日時：10月10日(木) 13:00～16:00

場所：よろず相談地域支援室

対象：がん患者さんとご家族

お問い合わせ：よろず相談地域支援室内 がん相談支援センター

電話：053-439-9047

人間ドックのご案内

聖隷予防検診センター

お申し込み：

0120-938-375

【予約受付時間】

◆月～金曜日 9:00～16:30

◆土曜日 9:00～12:00

がん、肝炎、糖尿病等の疾病により 長期にわたる治療が必要な求職者の皆様へ ～ハローワーク浜松による就職支援のご案内～

悩み・不安に就職支援ナビゲーターがアドバイスします！

日時：8月28日(水) 10:00～12:00

※事前予約可

場所：聖隷三方原病院 よろず相談地域支援室

お問い合わせ：医療相談室

電話：053-439-9046

※医療相談室にて予約ください

あれ!? これって...
認知症？

認知症の人には
どう接したらいいの？

認知症相談会

認知症に関する相談を、認知症看護認定看護師、医療ソーシャルワーカーがお受けします。ひとりで悩まず、ご相談ください。

日時：8月22日(木) 14:00～17:00

※事前予約制、30分程度／1件

場所：聖隷三方原病院 よろず相談地域支援室

申し込み：聖隷三方原病院 医療相談室(よろず相談地域支援室内)

電話：053-439-0006

受付時間：月～金 8:30～17:00

主催：聖隷三方原病院 浜松市認知症疾患医療センター

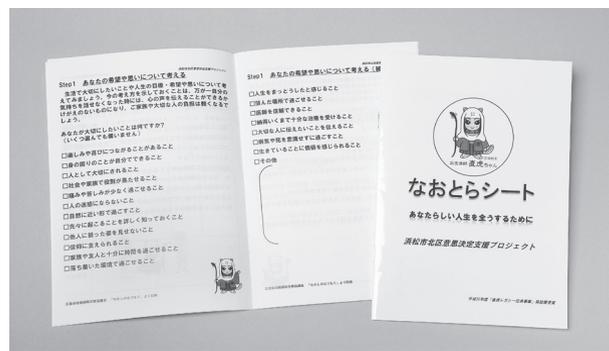
なおとらシートについて

～救急における意思決定を支える取り組み～

C3病棟
課長 村松 武明

➤ なおとらシートについて

人は誰でも大きな病気やケガをして命に関わる状態になる可能性があります。命に関わる状態になると約4分の3の方が、これからの治療やケアについて自分で決めたり、人に伝えたりすることができなくなるといわれています。そのため、治療やケアに関する考えを大切な人と話し合っておくと、もしもの時に自分自身の考えに沿った治療やケアを受けられる可能性が高いといわれています。なおとらシートは、これからの治療やケアに関する話し合いを始めることを手助けするためのものになります。まずは、浜松市北区の訪問看護利用者の方々を中心に、具体的には、訪問看護師が「あなたの希望や思いについて考える」や「あなたの健康について学び、考える」などステップを踏んでお話し支援させていただきます。



➤ 救急外来と訪問看護ステーションにおける意思決定を支える取り組みについて

救急外来では、ケガや病状が悪化して受診するケースがあります。中には重症で集中治療室に入院することがあります。救急では、重症であるほど、速やかに治療していかないと刻一刻と病状が悪化していきます。病状や治療方針など患者さんや家族へ説明していきませんが、患者さんが重症である場合、冷静な判断が難しい状況であり、家族に意思確認をすることがあります。しかし、突然かつ待てない状況の中では、どこまでの治療を望むか、明確に意思表示することが難しい場面を経験します。また救急搬送時には、患者さん本人の

～夏の冷え症にご注意～

冷え症というと冬をイメージしますが、実は夏の冷え症で体調を崩す人が多く油断は大敵です。私たちの体は気温などの環境に応じて体温を調節する必要があります。衣類や飲食物などを利用して少しでも体温の調節をスムーズにしようと思います。昔から夏になれば、薄着で素麺やスイカなどを食べ、麦茶を飲んで体を冷やしていました。しかし、冷房が完備された現代生活で同じようなことをしていると、夏の冷え症を引き起こしやすくなります。

夏の冷え症の特徴は、内臓の冷えです。胃腸炎や膀胱炎、女性は生理不順や不妊症にも繋がります。さらに自律神経の働きも乱れて、倦怠感や不眠、食欲不振を引き起こします。手足の先は温かいので、内臓の冷えは冷え症と気づきにくいのですが、放置していると冷え症が重症化する恐れがあるので十分注意しましょう。

漢方では、食べ物は体を冷やす「陰性食品」と体を温める「陽性食品」に分けられます。

陰性食品は暑い土地の原産で夏が旬、色が薄く、水分が多い傾向にあります。一方、陽性食品は寒い土地が原産で冬が旬、色が濃く、水分が少なく塩気が強い特徴があります。冷え症予防・改善には、夏でも陽性食品を食生活に取り入れると良いでしょう。

陰性食品（身体を冷やす食材）

バナナ、みかん、すいか、
レタス、白菜、きゅうり、
バター、マヨネーズ、白米、
うどん、牛乳、豆乳、
化学調味料、緑茶、コーヒー、
清涼飲料水

陽性食品（身体を温める食材）

りんご、さくらんぼ、ごぼう、
にんじん、れんこん、ショウガ、
玄米、そば、チーズ、海藻類、
黒豆、タラコ、ちりめんじゃこ、
鮭、カニ、卵、赤身の魚や肉

上記の食品を上手に利用して
今年の夏も楽しく過ごしましょう。

管理栄養士 神藤 詩織

意向がわからないことや家族が患者さん本人の意向がわからず、困惑してしまうことを訪問看護師が経験していました。救急外来と訪問看護ステーションとそれぞれ立場は違いますが、救急搬送時に患者さんの価値が反映された医療やケアを提供したいという思いは同じです。昨年度より意思決定支援におけるプロジェクトを立ち上げ開始しました。そして、完成したのが「なおとらシート」になります。まだ、始まったばかりですが、本人の意向が尊重される医療や療養を受けられることを大切にしていきたいと思います。

なおとらシートについては、救急外来の掲示板にも案内をしています。質問や相談などは、いつでも対応しますので連絡をお待ちしております。



このプロジェクトは、静岡県看護協会から看看連携モデル事業として支援を受けています。